

◎学長表彰

- 現代社会学部現代社会学科国際社会コース4年 鈴木陽介さん
2004年度行政書士試験、2005年度司法書士試験を1回目の受験で合格
- コミュニケーション学部言語コミュニケーション学科3年 河アランさん
第46回外国人による日本語弁論大会で第1位(優勝)となり外務大臣賞を受賞

◎学生部長表彰

- 【個人の部】
- 現代社会学部現代社会学科2年 加藤大貴さん
第45回東日本なぎなた選手権大会、個人男子の部第2位
 - コミュニケーション学部言語コミュニケーション学科2年 松浦奈々絵さん
 - コミュニケーション学部言語コミュニケーション学科1年 近藤千彬さん
「2005年度日本アジア航空第20回中国語スピーチコンテスト」で特別賞受賞
 - コミュニケーション学部言語コミュニケーション学科4年 柳美穂子さん
3年間のゼミ活動における学習態度の積極性と常に1、2位を争う成績を高く評価
- 【団体の部】
- なぎなた部
第45回東日本なぎなた選手権大会で、男女とも上位入賞
 - 女子バレーボール部
第120回東海大学男女バレーボールリーグ戦秋季大会準優勝により、4部リーグ昇格
 - Iニュース編集委員会(編集長 小嶋沙織)
図書館情報学科の学生に対し、役立つ情報をタイムリーに編集、配布。学科の教員と学生のコミュニケーションを図ることに役立つと共に、教育・研究の円滑な進展に寄与
 - バドミントン部
男子は、平成17年度東海大学バドミントン選手権大会で、4部から3部へ昇格。女子は平成17年度中部学生バドミントン選手権大会準優勝などの成績を取めた
 - 弓道部
昨年は男子、今年は女子がリーグ戦部門優勝し、3部昇格を果たす
 - ラグビー部
部として、部員が部活動と学習を両立させるための支援を充実させながら、部員一人一人も努力し練習を積み重ねてきた結果、東海学生Bリーグ優勝を果たした。

◎神谷奨励賞

- 文学部
 - ・国文学科 村上智香さん ・英文学科 石田久恵さん
 - ・図書館情報学科 長野祐子さん
- 現代社会学部現代社会学科
 - ・地域社会 浅野素世さん ・国際社会 古川尚子さん
 - ・メディアプロデュース 河村祐未さん ・都市環境デザイン 畑博子さん
- コミュニケーション学部
 - ・コミュニケーション心理学科 森貴子さん
 - ・ビジネスコミュニケーション学科 小山恵子さん
 - ・言語コミュニケーション学科 谷村果南さん
- ビジネス学部
 - ・木戸康晴さん
- 文化創造学部文化創造学科
 - ・表現文化専攻 小松祥子さん ・多元文化専攻 本川由佳さん
 - ・環境文化専攻 澁川綾子さん

(注)学年は17年度のものです



学長表彰



学生部長表彰



神谷奨励賞

学長表彰、学生部長表彰、神谷奨励賞の授賞式が挙行

3月7日(火)、長久手キャンパスにおいて、平成17年度の学長表彰、学生部長表彰、神谷奨励賞の表彰式並びに授賞式が挙行されました。今回の学長表彰は、行政書士試験、司法書士試験をそれぞれ1回目の受験で合格した現代社会学科4年生(当時)の鈴木陽介さん、平成17年6月、米子コンベンションセンターで開催された第46回外国人による日本語弁論大会で、28か国143人の応募者のなか見事第1位(優勝)になり、外務大臣賞を受賞した言語コミュニケーション学科3年生(当時)河アランさんの二人が受賞しました。学部長表彰は、個人で3人、

5団体が対象となりました。得意な分野で精一杯の努力が認められた受賞者の皆さん、これからもますますの活躍を期待しています。また、今年度2年目となる神谷奨励賞は、各学科専攻3年生一人ずつが学部長から推薦され、晴れて受賞が決まりました。代表として今後いっそうの励みがありました。



万博フレンドシップ事業効果を発表

愛・地球博(愛知万博)の参加国と愛知県内の市町村がペアを組んで交流した「二市町村二国フレンドシップ事業」では、多くの自治体が、学校を中心に子供から大人まで幅広い交流を行いました。万博閉幕後も交流が続いたり、今後も交流を検討している自治体は少なくありません。愛知県ではこの事業への住民参加の状況や地元への効果について、22市町村を対象に調査を実施。調査員は、本学の在学生30人を含む県内の大学生38人です。

3月16日、本学星が丘キャンパス2号館で、調査報告会が開催されました。本学調査員も自治体の職員や学生、有識者など多くの参加者の前で報告。その後の討論会にも本学学生はパネラーとして参加し、有識者と交流の継続方法や今後の国際交流の方向性について提言しました。討論会の司会を担当した本学文化創造学部の榎田勝利教授は、まとめとして、愛知万博における大規模な住民参加による国際交流の大きな成果をたたえ、共に、開幕後もこの活動の継続や活性化のため市民参加が不可欠であり、行政にとってはリスクを負うが、財政支援に留め、市民に全面的に事業を委ねるなど勇気ある運用を望みたいと提言を行いました。



都市環境デザインコース卒業研究展2006

2月14日から18日にかけて、名古屋市民ギャラリー栄において都市環境デザインコース卒業研究展が開催された。本年度卒業生による卒業制作18点、論文14点のパネル、模型が展示され、5日間の期間中に約6000人の来場者を数えた。今年は昨年度よりも展示点数を抑え、会場全体に余裕がある印象であった。入り口を入ると右手に論文コーナー、奥に3脚のイス、左手には模型とパネルが置かれ、プロジェクターでCG映像を流すなど、プレゼンテーションにも今まではない工夫が見られた。学内展において専任教員、非常勤講師による投票が行われ、卒業制作から4点、論文からは3点の優秀作品が選ばれた。総じてレベルは

上がっているものの、昨年のような大きな模型が見られないなど、やや小粒な印象との感想も聞かれたが、視点のユニークさやテーマの社会性に対して一般来場者からも好評をいただいたようである。これからの貴重な意見をふまえて、来年度もより一層充実した展示を目指したい。



LECTURE

講演会報告



第6回 文学部講演会



第6回文学部講演会が1月25日に開催され、講師として韓国の釜山教育大学コンピュータ

教育学科の李在舞教授をお招きしました。演題は「韓国におけるM-Learningの動向」で、韓国のM-Learningの普及の背景として、発展した韓国のインターネット環境、韓国特有の教育システム等を紹介され、E-Learningのメリット、E-Learningの利点と欠点、及び課題についても英語に日本語をまじえながら言及されました。後半には李教授「自身が小・中学生用に開発されたM-Learningプログラムのデモンストレーションが実施されました。」

2月14日(火)、CSKシステムズの人事課主査の佐々木啓司氏を講師に迎え、PTA講演会を開催しました。昨年同様、大会議室で行いました

PTA講演会



が、80人近い出席者があり、ほぼ満席の状況でした。講師の佐々木氏は技術職で入社後、人事畑を歩まれ、中部地区の大学で新規採用について学生に講演をなさっています。今回は企業はどんな人材を望んでいるか、それを踏まえて中学・高校時代に身につけておくべき知識教養は何かと、どんな過ごし方をすべきかなどについてお話しされました。

力と決断力、加えて行動力が大事であり、それらはコミュニケーション能力に加えて、中高時代の基礎学力に加えて人間関係を円滑にする能力の重要さを語られました。バブル崩壊後、不透明な時代ではありますが、人となりについては変化することもなく対人関係が重要で、それには中高時代の基礎基本が大切であることを改めて実感しました。



ポスターセッションのブース

現代GPフォーラムでポスターセッションを実施



文部科学省高等教育局大学改革推進室が3月4日、平成17年度現代GPフォーラムを東京ビッグサイトで開催しました。このフォーラムは、文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)」に選定された取組が、他大学の教育改革の取組の参考と

なるよう、情報提供の一環として行われたものです。当日は、大学教育改革の現状と今後についてのパネルディスカッション、これまでに選定された取組の事例発表を参考に選定委員と取組担当者による意見交換や質疑応答を行うグループディスカッション、さらに平成17年度に選定

された取組を実施する各大学等が自ら作成した揭示物、資料で情報発信を行うポスターセッションなどが行われました。参加者は延べ2000人を超え、熱気あふれるフォーラムとなりました。本学の現代GPの選定を受けた「多文化共生を目指した発信型全学英語教育」モニュ

ル化された体系的カリキュラム開発」のポスターセッションのブースでは、訪れた参加者と本学担当者との間で、活発に質疑応答や意見交換が行われました。

第2回医療福祉学部言語臨床セミナー



2月26日、星が丘キャンパス2号館で「高機能自閉症・アスペルガー症候群のコミュニケーション支援」のテーマで

高機能自閉症やアスペルガーの子ども達は言語性知能の高さや表面的な会話力があり、コミュニケーション障害が顕在化しにくい特徴があります。多くは普通学級に進級しますが、周囲に理解されないため不適応を起こす子ども達、教育的配慮に苦慮している教師が多いのが現状です。このような子ども達の特徴とコミュニケーション支援について、ピデオを使い具体的に明快に教示された飯塚先生の講演は、参加者全員にとって有意義なものとなりました。

医療貢献学会第1回学術講演会



3月15日、言語聴覚学専攻企画「医療貢献学会主催による医療貢献学会第1回学術講演会」リハビリテーション医療における作業療法と理

木朋子先生(今年度より本学医療福祉学部助教授が担当されました。チーム医療の重要性が叫ばれている現在、リハビリテーション医療において中心的な役割を果たす二職種についてのご講演は、これから現場での活躍が期待されている本学部の学生にとって非常に有益であったようです。今後もこのような場を設けるよう、学科、学会企画の積極的な展開に努めたいと考えています。